

檜尾川砂防ダムについて疑問を持っている高槻市民です。檜尾川砂防ダム計画を見せていただいて、いろいろな疑問をもった点を説明させていただきます。

(図1)

まず最初に、地質について説明したいと思います。

砂防ダム建設予定地は土砂の流出が多い地層というふうになっておりますが、そうではなくて、土砂の流出が少ない地層であるということを述べたいと思います。

図1の緑のところは古い時代の硬い岩盤です。緑色の濃いところが古い時代の丹波層群の硬い岩石です。そして、黄色のところは、柔らかい、新しい時代の大阪層群の場所です。檜尾川は北の方から南の方に流れています。砂防ダム建設予定地は赤い線と交わったところですが、赤い線は分水嶺の線です。これを見てわかるように、上流から砂防ダム建設地にかけてすべて緑のところを通過しています。つまり檜尾川は硬い岩盤の上を流れていることがわかります。つまり土砂の流出が少ない地層の上を通過しております。

(図2)

断面図をとってみました。A-B、C-D、E-Fと3つの断面をとってみました。

色が違うんですが、同じく緑色が硬い古い時代の丹波層群の硬い固まった岩石です。そして黄色でなくてだいたい色になっていますが、柔らかい大阪層群の砂礫層になります。そして、水が集まって、くぼみのところがそれぞれ檜尾川になります。これを見てもらったらもっとよくわかると思いますが、すべて檜尾川は、緑色のところ、つまり硬い岩石の上を流れているということがわかると思います。

(図3)

これは写真です。檜尾川には最適な場所があるというふうには書いてあるんですが、検証では、堆積土砂は見られないということを述べたいと思います。

6月7日ですが、この日はたくさん雨が降りまして、檜尾川の西側には芥川があって、もっと大きな川なんです。さらに西に安威川があります。そこでは大変泥水が渦巻くように流れていました。ところが、その日、私たちが行ったどしゃぶりの雨の後でさえ、水は少なく、土砂は流れていません。この写真でざらんになるとわかるとおり、透き通った水で、岩盤が見えていて、土石流や堆積物は存在しません。

同じ日の写真ですが、上の方は建設予定地より写した上流の山々です。先ほどの断面図にありましたけれども、だいたい色のところは柔らかい地層なんです。山の上の方にだけ乗っかっております。その柔らかい地層を見ますと、杉林や雑木林に覆われて、緑に覆われていて、堆積土砂は見られません。

下の写真は、砂防ダム予定地の檜尾川です。檜尾川の川面の上なんです。とても小さい幅2mということもありますが、大変夏草が茂って、笹類とかいろいろな草木が茂ってしまっていて、たった小さな2mほどですので、覆われてしまっています。さらに、檜尾川は、集水域はたった約1km<sup>2</sup>で、大阪城公園より狭いという小さな川です。

檜尾川流域の地形図です。薄くて申しわけないんですが、檜尾川は地図の右下の方に流れております。そして、左手の方の芥川は、地図の上から下まで続いておりますが、長く延びています。檜尾川砂防ダム建設予定地について、地形から読み取れることがあります。砂防ダムの建設予定地よりも、上流の檜尾川の上流は傾斜が急になっております。それから緩やかになっております。つまり、この神峰山寺があるあたりで、もし堆積土砂があれば、

土砂崩れがあるはずですが、このあたりで歴史的に長く神峰山寺がありますが、土砂崩れがあったという記録はありません。つまり今は緑に覆われていまして、杉林とか広葉樹とかで、緑のために大丈夫だということがわかります。

さらに、砂防ダム建設予定地のあたりについても、傾斜の急なところがあって、そして、傾斜が緩やかになっていて、やはり堆積するような場所となっています。しかし、ここでも記録に載るようなそういう土砂崩れというのはありません。

さらにもっと詳しい地図をお見せします。

これは府の砂防ダムの計画予定地の図なんですけど、先ほど下の方になっていた砂防ダムの建設予定地になっておりますが、ここはテラスとなっていて、そして400m下流では谷が詰まったようになっています。ということは、ここの詰まったところで過去に土砂崩れが起こっているということが考えられますが、やはり、この付近でも記録に残るような土砂崩れはありません。

この地形を考えてもらったらわかるんですが、このことから堆積土砂は少ないことを表しておりまして、砂防ダムにはふさわしくありません。そして、ここの場所は自然の植生による緑に覆われていまして、先ほど写真で見ていただいたとおりですが、遊水地帯となっても、雑木林とか普通の草が生えていますので影響は少ないと考えます。ここに砂防ダムを建設するよりも、買収した土地をその形のまま河川の氾濫原として利用すると下流への土砂災害を防ぐことができます。ですから、緑のダムとしてこのままで置いておけば、ちょうど適当な地形になっておりますので、ぜひこの地形を活用してほしいと思っております。

最後に、第2名神の自動車道路との関連がどうなっているのかわからないので、大変不安であるという点について述べたいと思います。

檜尾川砂防ダム予定地付近では、先ほど見ていただいたように、針葉樹林とか広葉樹林のために、保水性が高く、安全でありますけれども、これから建設工事があるとわけが違ってきます。6月27日と29日の集中豪雨のときに、大阪層群の上を流れている芥川の撰津峡の道路とか、原の林道が崩れて、通行不可能となりました。この写真は高槻市広報が出した原の芥川です。

これは、27日と29日の高槻の林道の土砂崩れの場所です。小さいんですが、ここは先ほどの写真の原の場所です。撰津峡はこの少し南の方なんですけど、道路が通行不可能になるような大きな崩れがありました。ところが、ほかにもくずれた道路はあるんですが、檜尾川筋の小さな、ここの青いところですが、ちょっと見えにくいのですが、この流域にはそういうところはありません。ということは、今も緑のダムとして地形として有効に働いていて土砂崩れが起こっていないということを示しているということがわかると思います。

もしも第2名神道路とか砂防ダムの工事によって森林が伐採され、さらに斜面がむき出しになって、保水性が低くなって、ほかの場所のように土砂の流出量が多く増えて、固まってない地層では地層崩落が起こって、成合地区が新たな土砂災害の危険地となる可能性があります。砂防ダムが満タンになると、また新たに砂防ダムをつくるというばかなことではなくて、土砂災害防止のために、長期間を見据えた自然を利用した政策を示してほしいと考えております。よろしく申し上げます。